

第2回姫路市文化芸術振興ビジョン検討懇話会次第

日 時：令和8年8月25日（火）15時00分～

場 所：姫路市役所 地下101会議室

1 議題

(1) 姫路市文化芸術振興ビジョン骨子（案）について

(2) 意見交換

2 その他

次回開催について

※ 配布資料

資料

第2回姫路市文化芸術振興ビジョン検討懇話会 会議資料

参考資料1

アンケート調査からみられる文化芸術に対する若者の状況

参考資料2

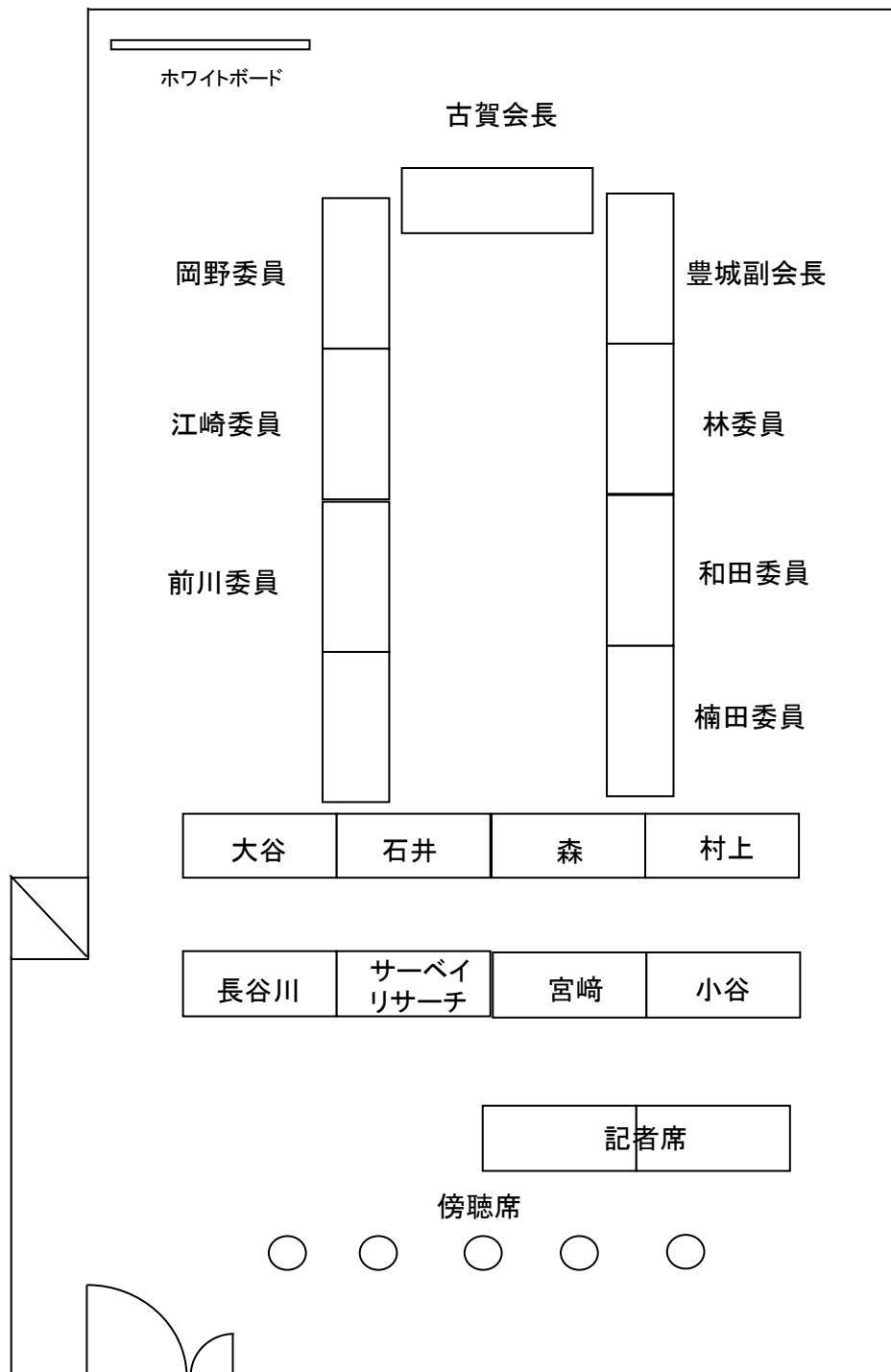
他自治体での取組事例

姫路市文化芸術振興ビジョン検討懇話会 委員等名簿

	氏名	肩書
学識経験者	古賀 弥生	芸術文化観光専門職大学副学長
	豊城 浩行	日本城郭研究センター名誉館長(元文化庁鑑査官)
文化関係者	岡野 亜紀子	演劇プロデューサー(神戸文化ホール事業部長)
	林 裕美子	声楽家
	江崎 欽次郎	能楽師
文化団体	和田 達也	公益財団法人姫路市文化国際交流財団理事長
経済団体	前川 晶子	姫路商工会議所女性会会長
公募委員	楠田 真	

事務局	森 健	観光経済局長
	石井 盛夫	観光経済局国際戦略室長
	村上 貴志	観光経済局国際戦略室主幹
	大谷 隆雄	観光経済局国際戦略室課長補佐
	長谷川 凌	観光経済局国際戦略室主任

配席図



第2回姫路市文化芸術振興ビジョン検討懇話会

会 議 資 料

2026.8.25

姫路市役所 B101 会議室

国際戦略室

姫路市文化芸術振興ビジョン改定の考え方

姫路市が目指す将来像

歴史と文化芸術が紡ぐ心豊かな未来

文化芸術振興ビジョンに基づく
各種施策を展開し、これを実現

具体的には…

- ・ 誰もが歴史・文化芸術に触れられ、プレイヤー・オーディエンス・サポーターのいずれの立場としても**楽しむ機会**がある
- ・ これまで醸成されてきた歴史・文化芸術資源が**次代に引き継がれ**、国内外の人々が将来に渡ってそれを享受できている
- ・ 歴史・文化芸術が**他の分野にも**活かされ、市民が**誇りを持って**暮らしている

(※)

(※) 観光や経済、国際、教育、福祉、医療などの分野

そのためには…

強みと弱みを整理し、それらを踏まえつつ、新たな視点を導入

【強み】

- アクリエひめじや美術館等の**拠点**の存在
- パルナソスホール（パイプオルガン）、キャスパホールなどの**施設の充実**
- 世界遺産**姫路城**の存在
- 有形・無形の文化財や**伝統文化・伝統芸能**の存在
- 「ル・ポン国際音楽祭」をはじめとする、**多数の音楽事業**の展開
- ジュニアオーケストラ**に代表される人材育成事業の展開
- 関係機関（姫路市文化国際交流財団、大学など）とのつながり
- 多数の**姉妹都市・姉妹城**とのネットワーク
- 主要都市からのアクセスの良さ

【弱み】

- 姫路城以外の**認知度の低さ**
- 「音楽のまち・ひめじ」や「交響詩ひめじ」などの事業の
市民全体への**浸透力不足**
- 若年層や未参加層へのきっかけづくりや**情報発信の不足**
- 長期的な事業設計の視点不足
- 若者の他都市への流出。少子高齢化などによる文化芸術の
担い手の不足
- 文化芸術の力の**他分野への活用が不十分**

実現のために
必要と考える要素

機会 / 人材 / 基盤 / 支援 / 保存・継承 / 交流 / 地域活力

第1回懇話会で出た主な意見（ジャンル別に分類）

全体・ 基本理念など

- ・「本質的な価値」とあるが、もう少し具体的に示す方が、今後の作業が進めやすい。
- ・最終的に冊子にする際に、市民にわかりやすい表現で記載するほうがよい。
- ・歴史あるまちなので、素晴らしいことである反面、固いコミュニティの繋がりががあるので、他者が排除される危険性もあると思う。
- ・バランスを取ることができれば、姫路市ならではのものができる。
- ・「新たな価値の創造」は、既存の価値観を塗り替えることに繋がる。これまでのものを壊して作り直すということではなく、既存の価値観の延長線上に何かプラスするようなイメージとすべき。
- ・KPIについては、単にイベントの参加人数等ではなく、年齢や世代的な要素を入れられたらと思う。
- ・漫然とアンケートを行うと、回答者の年齢や経済状況などが偏る。大学や専門学校など、若者が集まるところに絞って行うのもあり。

機会・育成

- ・ほとんどの人が何かしら文化芸術に関わっているはず。自らが関わっていると言えることが、ビジョンが浸透したことにもなると思う。
- ・人が何に興味を持つかは、その人次第。まずは、文化芸術の空気に触れることから。
- ・文化芸術は“非日常の特別なもの”として押し出すことがある。そういう体験も大事だが、やりすぎると“自分ごと”として考えてもらえない。文化芸術には関係ないと思っている人が多いので、身近なものとして感じてもらう工夫が大切。
- ・小学生を劇場に招くといったインリーチ活動も大切だと思う。
- ・皆が同じものを好きになり、同じことをする必要はない。姫路市は市域も広く、その中で享受する文化も違う。一つ一つの文化を大切に、子どもたちが地域で育っていくことが大切だと思う

支援・情報発信

- ・文化芸術活動を行う側の努力として、どうすれば知らない人、興味のない人に来てもらえるのか考えることが重要。知ってもらえる工夫をすればいい。意見を出し合い、お互い学ぶことが大切だと思う。
- ・さまざまな取組について、関係者だけが知っており、それ以外の人は認知していないことが非常に残念。
- ・若者にも情報が届くよう、姫路らしい情報発信のあり方を考えてみていいのではないかな。

保存・継承 ・交流

- ・高齢化が進み、団体の活動は年々厳しくなっている。これまでの歴史や伝統のある活動を、どう次世代に受け継いでいくか、活動を存続させるかを考えていきたい。
- ・文化財は、その土地の歴史や文化そのもの。それを知ることが、自らのアイデンティティ、バックボーンとして重要である。まずは知る機会を与えること、歴史文化を知るきっかけづくりが大切。
- ・外国人との関わり合いについて、岐阜県可児市の文化創造センター「ala」の取組みや、ピッコロ劇団による演劇ワークショップの取組みが参考になると思う。

醸成・活用

- ・若者が進学等のタイミングで市外に転出していく際に、姫路市の誇れる部分をきちんと認識できているような教育が必要だと思う。
- ・近年に国の流れは、経済的な部分を含め、文化芸術の力を地域や社会に活かしていくという方向で進んでいる。

施策体系図（案）

